経営成績および財務分析（MD&A）

2020年度の経営成績等の分析

売上収益と営業利益および当期利益について

2020年度の売上収益は2,496億円（前年度比3.3%増）となりました。主力の医療用医薬品事業が新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の環境下でも堅調に推移し、前年度と比べ4.5%増加し、2,347億円となりました。地域別には、日本、中国、アジアで継続的に売上伸長しています。

売上総利益は前年度と比べ3.2%増加し、1,514億円となりました。販売費及び一般管理費は前年度と比べ5.2%、研究開発費は3.3%増加し、コア営業利益は0.2%増の501億円となりました。

一方、IFRS（フル）ベースの販売費及び一般管理費は、前年度と比べ8.4%増加しました。Eyevance Pharmaceuticals Holdings Inc.(米国)の買収および統合業務、ならびに、持株会社体制への移行・決算期の変更に係る一過性の費用等が24億円発生したことが主な要因です。研究開発費は、コアベースからの調整はありません。

その他の収益は160億円、主にSTN2000100（DE-128、PRESERFLO MicroShunt）を開発するInnFocus, Inc.（米国）買収時に負債計上した条件付対価の公正価値（時間的価値以外）について、米国における承認時期の遅延を前提に見直しを行った結果、帳簿価額が変動したことによるもの（戻入益）です。

その他の費用は409億円となりました。主に、InnFocus, Inc.（米国）に係る無形資産（のれんおよび開発製造販売権）について、米国における承認時期の遅延を前提に資産価値の見直しを行った結果、帳簿価額を回収可能価額まで減損したことによるものです。

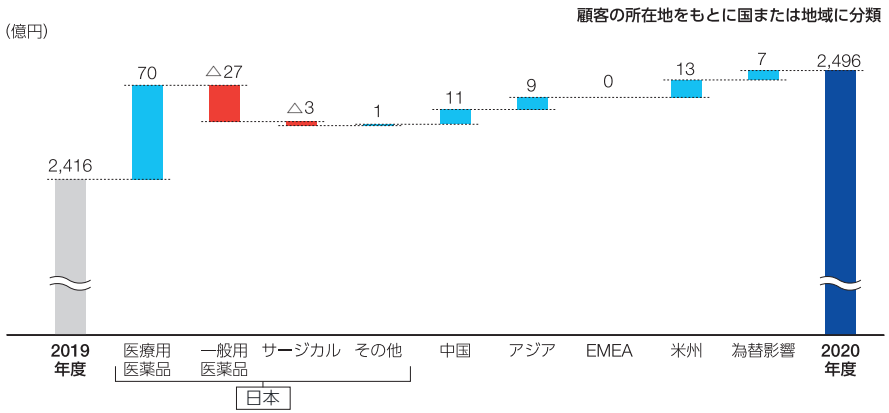
これらにより、IFRS（フル）ベースの営業利益は前年度と比べ61.5%減少し129億円となりました。

金融収益は13億円となりました。これは主に、保有する投資有価証券に係る受取配当金によるものです。金融費用は15億円、主にInnFocus, Inc.（米国）買収に伴う条件付対価の公正価値変動額のうち時間的価値の変動によるものです。

法人所得税費用は前年度より46億円減少し58億円となりました。主に試験研究費の税額控除適用額の増加に伴う当期税金費用の減少、開発製造販売権の減損損失計上に伴う繰延税金負債の取り崩し、および上述のIFRS（フル）ベースの営業利益の減少に伴う税引前当期利益の減少によるものです。これらの結果、当期利益は前年度と比べ69.4%減少し、66億円となりました。

親会社の所有者に帰属する当期利益は、前年度と比べ71.1%減少し、68億円となりました。売上収益に対するその比率は、2.7%となりました。

地域別売上概況



日本の医療用医薬品事業では、薬価改定の影響による減収要因があったものの、高濃度で効果の持続性が長い「アレジオンLX点眼液」および「アイリーア硝子体内注射液*1」などの伸長により、前年度と比べ4.7%増加し、1,558億円となりました。一般用医薬品事業ではインバウンド需要の減退などにより、医療機器事業では新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響などにより減収となりました。結果、日本事業全体では前年度比で2.5%増加し、1,691億円となりました。

経営成績および財務分析（MD&A）

中国は円換算ベースで前年度と比べ4.6%増加し（為替影響を除いた成長率は+4.8%）、233億円となりました。なお、「クラビット点眼液」は、下期から集中購買による影響を受けつつも、私立病院や薬局など他のチャネルでの拡販に注力しています。

アジアは円換算ベースで前年度と比べ4.4%増加し（為替影響を除いた成長率は+5.2%）、172億円となりました。

EMEA（ヨーロッパ、中東およびアフリカ）では円換算ベースで前年度と比べ2.5%増加し（為替影響を除いた成長率は+0.1%）、379億円となりました。

米州は円換算ベースで20億円となりました。なお、米州の売上収益に含まれる、第2四半期に買収したEyevance Pharmaceuticals Holdings Inc.（米国）の売上収益は10億円です。

*1 製造販売元であるバイエル薬品株式会社とのコ・プロモーション製品です。

資産および資本・負債の状況

資産は、4,024億円となりました。Eyevance Pharmaceuticals Holdings Inc.（米国）の買収等に伴う無形資産の増加、営業債権及びその他の債権の増加などの一方、緑内障用デバイスSTN2000100（DE-128、PRESERFLO MicroShunt）の米国における承認時期の遅延を背景とした、同製品を開発するInnFocus, Inc.（米国）に係る無形資産（のれんおよび開発製造販売権）の減損に伴う無形資産の減少、現金及び現金同等物の減少などにより前年度末と比べ64億円減少しました。資本は、3,071億円となりました。利益剰余金の減少などがあった一方、その他の資本の構成要素の増加などにより前年度末と比べ45億円増加しました。負債は、953億円となりました。営業債務及びその他の債務の増加などがあった一方、InnFocus, Inc.（米国）買収に伴う条件付対価の公正価値の変動および支払による金融負債の減少などにより前年度末と比べ109億円減少しました。以上の結果、親会社所有者帰属持分比率は、前年度末と比べ2.3ポイント増加し、76.4%となりました。

設備投資の概況およびキャッシュ・フローの状況

設備投資額は113億円となりました。拡大を続ける需要に対し、安定供給のための生産能力確保を目的として、滋賀プロダクトサプライセンター敷地内に医療用点眼薬製造棟の増設、ならびに中国の現地法人「参天製薬（中国）有限公司」の新工場にかかる投資を開始しました。今後、見込まれる市場成長に対し、早期にキャパシティを構築することで、グローバルでの競争優位を確立し、さらなる事業の成長につなげていきます。また、事業のグローバル展開を支え、業務標準化と抜本的な生産性効率の向上を目的として、次世代ERPへの投資等を継続しています。

営業活動によるキャッシュ・フローは、388億円の収入（前年度は、399億円の収入）となりました。主に当期利益が66億円、InnFocus, Inc.（米国）に係る無形資産の減損等に伴う減損損失407億円、InnFocus, Inc.（米国）買収に伴う条件付対価の公正価値の変動および支払等による長期未払金の減少173億円、減価償却費及び償却費168億円、法人所得税の支払128億円、営業債権及びその他の債権の増加75億円によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、534億円の支出（前年度は、52億円の支出）となりました。主にEyevnance Pharmaceuticals Holdings, Inc.（米国）の買収に伴う子会社株式の取得による支出238億円、jCyte,Inc.（米国）とのライセンス契約に伴う無形資産の取得による支出55億円およびAerie Pharmaceuticals, Ireland Ltd.（アイルランド）とのライセンス契約に伴う無形資産の取得による支出52億円などの無形資産の取得による支出197億円によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、167億円の支出（前年度は、127億円の支出）となりました。主に配当金の支払い112億円によるものです。

以上の結果、現金及び現金同等物の当期末残高は、前年度末と比べ285億円減少し、629億円となりました。

経営成績および財務分析（MD&A）

利益配分に関する基本方針

当社は、株主の皆さまへの利益還元を経営の最重要事項と位置付け、中長期的な事業環境や資金需要と内部留保の水準、ならびに資本構成等を総合的に勘案し、配当を中心に、自己株式取得を補完的な手段として還元することを基本としています。

内部留保は、将来成長のための研究開発、事業開発、設備投資などに資源を投下し、余資は自社株買いにより機動的に還元していきます。

2020年度は、業績および財務状況などを総合的に勘案した結果、年間配当金は1株当たり28円、前年度より1円増配となりました。InnFocus, Inc.（米国）に係る無形資産の減損等に伴う減損損失などの影響により、配当性向は163.9%となりました。

2021年度の年間配当は、1株当たり32円、前年度より4円増配、連結配当性向は41.5%を予想しています。

2021年度の見通し

中期経営計画「MTP2025」の初年度となる2021年度は、売上収益は2,600億円、前年度比4.2%増を予想しています。国内事業が薬価改定の影響を受けつつも引き続き堅調に推移する見通しに加え、海外事業は、中国、アジアおよびEMEAの成長に加え、2020年9月に買収したEyevance Pharmaceuticals Holdings Inc.（米国）の商業基盤をもとにした米国への本格参入によるものです。会社の経常的な収益力を示すコア営業利益は、520億円と前年度比3.8%増を見込んでいます。将来成長のための資源投下の継続と引き続き費用コントロールの強化を行うことによる経常的費用支出の抑制の両立を図ることで、持続的な利益成長を確保することを目指します。

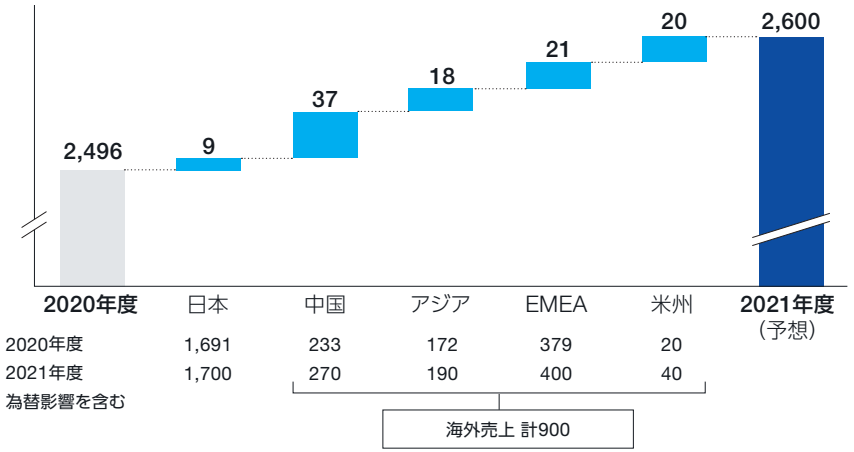
IFRS（フル）ベースについては、営業利益は415億円、前年度比221.3%増を予想しています。主に2020年度はInnFocus, Inc.（米国）に係る条件付対価の公正価値変動額の戻入益152億円および無形資産（のれんおよび開発製造販売権）の減損損失403億円により一過性の収益と費用が発生しましたが、2021年度は発生しない想定によるものです。当期利益は305億円、前年度比359.0%を予想しています。これは主に、営業利益の増益に加え、2020年度は上記と同様にInnFocus, Inc.（米国）に係る一過性の収益と費用の会計処理に伴い負担税率が上昇しましたが、2021年度はそれら一過性の要因が発生しない想定に基づき低下を見込んでいることによるものです。

業績見通しの前提となる為替レートについては、1USドル=105円、1ユーロ=125円、1中国元=16.5円を想定しています。

なお、上記の業績予想は現在において入手可能な情報に基づいて作成しています。実際の業績は、事業環境の変化などさまざまな要因により予想数値と異なる結果となる可能性があります。

売上収益地域別増減予想（前年度比）

顧客の所在地をもとに国または地域に分類



	日本	中国	アジア	EMEA	米州
2020年度	1,691	233	172	379	20
2021年度	1,700	270	190	400	40

為替影響を含む